

お尻が痛い！

お尻の悩みは誰にも相談しにくいものです。その症状はさまざまで、痛み・出血・いぼなどを訴えて来院されます。肛門疾患の代表は、痔（じ）核（いぼ痔）、裂肛（切れ痔）、痔瘻（ろう）（穴痔）が挙げられ、日本人の3人に1人はこの肛門疾患のいずれかを持っているといわれています。「お尻が痛い」という症状から病気と原因を見てみましょう。

同じ姿勢を長く続けることや、便秘などで「急に強い痛み」を感じ、お尻にいぼができることがあります。これは痔核が考えられます。痔核には内側の痔の腫れ・脱出と外側の痔の腫れの2種類があります。外側の痔の場合には、簡単な手術を行うか外用剤による治療を行います。一方内側の痔には、手術や外用剤による治療の他、注射による治療も最近行われるようになりました。

「排便時のピリッとした痛み」で出血がある場合には、裂肛が考えられます。便秘だけでなく下痢もまたその原因です。まずは外用剤で治療しますが、排便習慣の改善が重要です。

お尻の近くが腫れて「熱をもって痛い」場合には、肛門周囲膿（のう）瘍が考えられます。場合によっては簡単な手術で膿（うみ）を出します。原因はお尻の内側にあり、痔瘻が残る場合があります。この場合には手術が必要です。

最後に肛門にも癌（がん）ができることがあります。お尻が痛い、排便時に血が出るなど「痔？」と思うような症状で来院される場合があります。「痛み」はお尻の「SOS」です。症状があれば診察を受けてください。

平成24年6月 植木 孝浩